

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870200629		
法人名	社会福祉法人 光朔会		
事業所名	グループホームオリンピア灘		
所在地	兵庫県神戸市灘区灘北通3丁目1-15		
自己評価作成日	2014年12月1日	評価結果市町村受理日	平成27年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	平成27年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新しいことにチャレンジを続けるオリンピア灘は、「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念のもと、利用者ひとりひとりの「その人らしさ」を大切に、利用者の可能性を最大限に引き出すケアを行っている。併設の居宅介護支援事業所、共用型デイサービス、グループホームと住み慣れた地域で継続してケアを受けることができ、より適切に地域のニーズに添っている。それにより、グループホームオリンピア灘(2015年4月オープン予定)に向けての相談・見学も増えている。また、地域住民とともにSalon de l'Olympia Nada(コンサート・講演会等)を開催するなど、地域との協働の機会を増やし、地域住民の認知症理解を深めることにも貢献している。さらに、最先端ケアのノウハウを獲得するために、法人で年一回実施しているスウェーデン研修にも積極的に参加し、ケアの原点を見つめ直し、スタッフの成長へとつなげている。今後もオリンピアの創立から脈々と受け継がれてきた「イエス・キリストの愛と奉仕の精神」を大切に守り、一層の飛躍を目指していく。

確立された法人理念が職員に浸透し、理念に基づいた支援が行われている。高齢になっても重体化しても常に利用者の自立支援とQOLの向上を目指し、尊厳とその人らしさを大切に個別支援が行われている。地域とのつながりを大切に、事業所として地域貢献すると共に、事業所内の行事や外出などで、利用者が直接地域と交流できる機会を数多く設けている。家族の協力も得ながら、日常的にも、遠方へも外出を継続し心身ともに活性化につなげている。また、献立から手作りの食事作り利用者もできる部分で積極的に参加したり、日課としてADL低下予防に取り組むなど、日々の生活でも心身機能の維持向上への支援に努めている。運営推進会議・福祉塾講座・折々の行事などに、家族・地域住民の多数の参加があり、事業所との関係作りが確立されている。職員の育成について、職業人としてだけでなく人として成長と育成を目指す法人の理念の下、職員が向上心を持って成長できる支援体制が構築されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「高齢になっても、今まで通りに誇りを持った暮らしを地域の中で安心して続けるお手伝いをさせていただくこと」を理念とし、理念実践のための3つの約束とともに、毎日の朝礼、カンファレンス、内部研修等を通じ、全職員で共有、実践している。他のユニットでの研修も行い、理念に沿っているか見直す機会としている。	地域密着型サービスとしての役割が盛り込まれたオリンピア灘としての理念を明文化し、3つの約束と共に毎日の朝礼で利用者と一緒に唱和を継続している。唱和することで、利用者と職員で理念の共有を図り、職員は理念の実現に向け意識して日々の支援に取り組んでいる。カンファレンスの中で利用者の支援や日々のケアを話し合う機会には、理念を踏まえてより具体的に実践につなげるように取り組んでいることが議事録で確認できる。新入職者を中心に、研修の中で毎年定期的に理念について振り返る機会を持ち理解を深めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治会に加入し、地域の方が気軽に立ち寄れるホームとして、また日々の外出、買い物、地域の行事への参加を通じ交流を図っている。今年度もSalon de l'Olympia Nada(コンサート等)の開催、トライやるウィークの中学生の受け入れにより地域とのつながりがより深くなっている。	各利用者が地域の一員として自治会に加入している。買い物・食事・地域行事などで日常的に外出するとともに、神戸空港やどうぶつ王国などにも気軽に外出し、地域資源を活用している。地域の保育園の子供たちの来訪を受け、手遊びや食事を通して長時間一緒に過ごす機会を定期的に設けている。地域で音楽活動をされている方の来訪を受けコンサートを開催し、地域の方と共にコンサートを楽しむよう取り組んでいる。開催案内を配布する時には利用者と共に、利用者が地域に向いて地域活動を通して交流を持つ機会にもなっている。トライやるウィークでの中学生の受け入れ、オリンピア福祉塾講座での「認知症」「権利擁護」など様々なテーマでの勉強会の開催、地域の研修会やあんしんすこやかセンターの介護リフレッシュ講座への講師派遣などを通して、地域で必要とされる活動や役割を積極的に担っている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3			○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	Salon de l'Olympia Nada、オリンピア福祉塾講座等の勉強会を開催したり、地域の研修会に講師としての参加を通じ、地域の方の「認知症」の理解や支援に努めている。また、地域の方の見学も多く、現場での経験を活かして相談のり、居宅、デイサービスの利用やグループホームの入居につなげている。	/	
4	(3)		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、写真やビデオ等を利用し、日々の生活やイベントの様子を報告している。また、評価への取り組み等についても報告し、質向上のための話し合いをしている。会議で出された意見・要望等には素早く対応し、サービス向上に活かしている。利用者も数多く参加している。	運営推進会議には、利用者・家族・あんしんすこやかセンター職員を含め20名前後の参加がある。会議では、毎月発行している「月刊オリンピア灘」を配布したり、DVDで作成したメモリアルアルバムで利用者の日々の生活の様子を見てもらうなど、事業所の活動や取り組みについて理解を深めてもらい、意見や提案・要望などが出やすいように取り組んでいる。家族から利用者への日々の関わりについての評価を受けたり、あんしんすこやかセンター職員からのインフルエンザへの注意喚起を予防に反映させたり、地域の行事や活動の情報を得て参加につなげるなど、運営推進会議での意見や提案がサービスの向上に反映されていることが議事録から確認できる。また、「月刊オリンピア灘」に会議の内容を掲載し、参加できなかった家族を含め、広く報告している。	
5	(4)		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは役所に出向いたり、電話等により日常的に情報交換を行い、適切な指導を受けている。また、市担当者からの見学も受け入れ、より良い協力関係の構築に努めている。	運営推進会議にあんしんすこやかセンター職員の参加があるとともに、運営推進会議の内容は年1回指定の書式で市に報告し、事業所の現状を把握してもらっている。灘区の6事業所の連絡会に参加し、市の担当者との連絡・連携が図られている。日常的にも、電話や窓口で質問・相談・情報交換を適宜行っている。また、法人を通じて県・市から見学の依頼や相談などがあり、行政との連携・協働が図られている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の理念をホーム長および全職員が共有するとともに、身体拘束廃止に向けた研修を実施している。日々のケアにおいても、拘束に当たらないか常に話し合い、職員一人ひとりの意識の向上を目指している。また、玄関、エレベーターは日中施錠せず自由に出入りができ、心理的な鍵をかけないようにも取り組んでいる。	身体拘束廃止について、計画的・定期的に研修で学ぶ機会を持ち方針を共有している。また、日常的にも職員間で話し合い、利用者の日々の生活の中で出された課題については安全性を確保しながら拘束のない生活が継続できるように取り組んでいる。玄関・エレベーターは日中施錠せず、自由な暮らしを支援している。家族からベットの柵の使用などの希望が出された際にも、事業所としての方針を説明すると共に、拘束が及ぼす影響についても説明を行い、理解と納得を得て拘束をしないケアを行うように取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修を定期的実施し、虐待の定義や高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設けている。また、虐待につながりそうな危険がないか、日々のケアにおいて常に注意し、話し合う機会を持ち、身体的な虐待だけでなく、心理的な虐待も見過ごされることがないように努めている。	虐待防止についても、計画的・定期的に研修で学ぶ機会を持ち、虐待について正しく理解し、全職員で防止できるように取り組んでいる。日々のケアの中で利用者の表情・行動を観察し訴えに耳を傾けると共に、職員の表情や言動にも注意を払い、虐待につながる支援を見逃さないように取り組んでいる。身体に打撲や痣があれば、発見した職員が事故報告書・ヒヤリハット報告書に記載し全職員に情報共有が図られている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解と活用について行政書士による研修を実施し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について知識を深める場を設けている。現在、利用している方もあり、必要性があれば適切な支援ができるよう努めている。	オリンピア福祉塾講座で今年度も「権利擁護について」の研修が開催され、職員だけでなく利用者・地域住民と共に権利擁護についての理解を深めることができています。研修開催時には、利用の必要性を感じている利用者・家族が理解を深めるだけでなく、実際に相談できる体制も整えられており、必要に応じて円滑に利用が開始できるように支援されている。現在、家族が後見人となって適切に制度利用することで、利用者の安定した生活の継続が支援されている事例がある。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	(8)	<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結、解約、改定等の際には、十分な時間を取り、利用者やご家族の立場に立って、理解・納得が得られるように説明を行っている。また、疑問点に関しては速やかに解決できるように対応している。リーダーも現場からの声を伝えるように努めている。</p>	<p>契約前に利用者・家族との面談を通して利用者の状態や状況を把握したり、契約書を先に送付するなど、契約前から相互理解が深められるように取り組んでいる。契約時には、ホーム長・管理者・家族・利用者が同席し、契約書・重要事項説明書の内容について丁寧に説明を行い理解と納得を確認し同意を得ている。利用料金や重度化した場合の支援・対応については、特に時間をかけて説明を加えている。生活については、リスクも含め、リーダーを交えて説明を行い、事業所としての方針や取り組みについて理解と納得を深めてもらえるようにしている。 契約書・重要事項説明書の内容に変更が生じた場合には、タイミングが合えば家族会で説明を行い、変更部分の理解と同意を得るようにしている。家族会での説明が難しい場合には、電話や個別に説明を行い同意を得ている。 契約解除・退居についても説明を加えて行っている。</p>	
10	(9)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族懇談会、運営推進会議、食事会等の行事やご家族来訪時、また来訪が難しいご家族にも定期的な連絡により、利用者、ご家族の意見・要望を聴く機会を数多く設けている。寄せられた意見や要望は、ご家族ノート等により全職員で共有し、速やかに運営に反映させるように取り組んでいる。</p>	<p>家族の来訪・面会時、家族懇談会、運営推進会議、行事など、家族の意見や要望を聴取する機会を数多く設けている。「月刊オリンピア灘」で利用者の日々の生活の様子を報告したり、職員誰もが来訪した家族に報告・説明できるように利用者の情報を全職員で共有したり、職員から積極的に聞き取るように働きかけるなど、家族が意見や要望を出しやすい雰囲気づくり、関係作りに努めている。 利用者別に「ご家族ノート」を作成し、家族から出された意見や要望を情報共有し、出された意見や要望を漏らさず反映できるように取り組んでいる。利用者アンケートのコメントについても職員間で話し合いを行い、運営やサービスに速やかに反映できるように活用している。</p>	

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム長が全職員に定期的に、また必要に応じて面談を行ない、職員の意見や提案を汲み上げ反映させるように取り組んでいる。また、日常的に職員がホーム長に意見や提案をしやすい関係性を築いている。法人全体として、職員の提案を積極的に採用する方針を定めている。	ユニットカンファレンス・全体カンファレンス・リーダーカンファレンスが定期的開催され、職員がサービスや運営などに対する意見や提案を出し合う機会が確保されている。新入職員も率直に意見や気づきを出し、職員全員で質の向上に取り組んでいる。カンファレンスの他にも、日々出された意見・提案・課題については、速やかに話し合い検討がされていることが議事録から確認できる。各議事録はホーム長も必ず確認し、コメントが加えられ職員の意欲向上につながっている。また、ホーム長・管理者・リーダーは、各職員が普段から意見・提案・気づきを忌憚なく言いやすい雰囲気づくりや関係作りに心がけ、必要に応じて随時面談している。年度末には定期的なホーム長面談の機会も設けられ、年度初めに職員が設定した個別目標の自己評価、振り返りを行い次年度につなげ職員一人ひとりの資質の向上が図られる仕組みがある法人内での異動は必要最小限としており、利用者との馴染みの関係を大切に考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりが能力を発揮することができるように毎年目標を設定し、それに対する自己評価、上司による評価を実施している。努力や実績を積極的に評価することにより、得意分野を活かし、向上心を持って働けるよう環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの現状を把握し、それぞれの段階に応じた研修やトレーニングの機会を積極的に提供している。内部研修を数多く実施するほか、各種の外部研修などを活用し、質の高い人材の育成に法人として取り組んでいる。年1回の海外研修も実施している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への積極的な参加等により、同業者との交流を通じ、サービスの質を向上させるように取り組んでいる。また、相互訪問の機会や他施設からの見学もあり、積極的に意見交換を行っている。宅老所・グループホーム全国ネットワークにも加入している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入段階において、「生活の主人公は利用者ご本人」という理念のもと、ご本人の立場に立って、不安や要望等を聴く時間を設けている。安心して新しい生活を迎えていただけるように、スタッフ全員で情報を共有し、信頼関係の構築を目指している。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までにご家族が抱えている不安や様々な要望を確実に把握するため、面談や来訪を通じてご家族の思いを十分聴く時間を設けている。ご家族の思いを受け止め、信頼関係を構築し、サービスの導入を行うようにしている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が今置かれている状況を的確に把握し、その時に必要としている支援を見極め、早急かつ適切に対応できるよう努めている。必要に応じて、法人内外の他のサービスへの支援も行っている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主人公は利用者ご本人であり、職員は生活のお手伝いをさせていただくという理念のもと、日々の喜びや悲しみを共有し、お互いに支え合い、向上することができる関係性を築いている。利用者から生活の知恵など多くのことを学び、利用者が職員を支えるという場面も生まれている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人がこれまで通りの生活を送るためにはご家族の協力が必要であることを伝え、共にご本人を支える関係づくりに取り組んでいる。常にご家族と密に情報交換を行い、共にケアをつくりあげていくように取り組んでいる。	/	
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人のこれまでの人生をよく知り、馴染みの人や場所を訪れる機会を設け、関係性を途切れさせないように支援している。日々の電話や外出を支援するほか、ご家族の協力を得て、ご自宅や思い出の場所(喫茶店等)への訪問を支援するなど、慣れ親しんだ環境への関わりを継続して持てるように努めている。	利用開始時の面談や利用者とは日々かかわる中で得た情報をセンター方式の書式に記載し、また、入所時に家族に記載していただく利用者の情報の書式を活用して、馴染みの場所や馴染みの人などについての情報を把握し職員間で共有している。 利用開始後に順次把握できた情報は利用者個別の「発見シート」に記載し、1ヶ月程度で外出支援やプランに反映させるように取り組んでいる。馴染みの寿司屋・喫茶店など商店や地域の図書館などに外出支援を行っている。友人・知人の来訪で歓談したり、教会の牧師の来訪で礼拝をうけたり、これまでの馴染みの人との関係が途切れないように支援に努めている。馴染みの人の来訪だけではなく、利用者が出向いて会うことができる外出支援による関係の継続もできている。利用開始後にできた同法人のグループホームや通いの利用者との馴染みの関係も、外出行事やイベントを通して関係継続を支援している。 手紙や年賀状、暑中見舞いなどを通して、利用者が培ってきた関係を継続できるように支援している。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を常に把握し、利用者同士が共に助け合い、支え合えるように支援している。利用者同士が相談して物事を決め、互いに思いやり、労る場面を常に尊重し、職員は介入しすぎることなく自然に関わるよう努めている。またユニットを越えての利用者同士の関係作りにも取り組んでいる。	/	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス期間中に培った信頼関係を大切にしながら、サービス利用終了後も、必要に応じてご本人・ご家族と連絡を取り、必要な支援をしている。またご家族からも、ボランティアとして定期的な来訪、他の利用者のご機嫌伺いを兼ねての来訪、ご友人の紹介等支援していただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の何気ない言葉を大切にし、一人ひとりの思いや希望、意向を常に把握し、職員間で共有し、日々のケアに活かしている。また、意思疎通が難しい方も、表情や行動、言葉の端々から気持ちを汲み取れるよう努めるとともに、ご家族の協力を得て、利用者自らの思いや意向の把握に取り組んでいる。	利用開始時に家族に記載していただく書類に、利用者の思いや意向を記載する欄を設けている。利用開始後は、日々のコミュニケーションの中で思いや意向の把握に努め、特に、個別の外出支援時や入浴介助時、夜間落ち着いた時間帯などに、思いや意向を引き出すことができるような言葉かけや関わりを持つように努めている。把握できた思いや意向を職員間で情報共有し、カンファレンスや会議で検討し、実現するための方法を検討し支援につなげるように取り組んでいる。言葉で自らの思いや意向を訴えることが難しい方でも表情や行動などに職員は注意を払い、何気ない言葉や小さな表情の変化を見逃さないように努めている。また、利用者一人ひとりの思いや意向の表出の方法や引き出し方法などを、記録やカンファレンスで共有し、利用者の日々の思いや意向、希望を漏らさず把握し支援につなげるように取り組んでいる。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「今まで通りの生活」を大切にし、一人ひとりの生活スタイルに沿った支援ができるように、ご本人やご家族からの情報収集に努めている。また、センター方式のアセスメントを有効に活用することで、生活歴やサービス利用の経過等を把握している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の暮らしの流れに沿って、一人ひとりの現状を総合的に把握するように努め、利用者の有する力の変化に柔軟に対応している。利用者の新しい発見、些細な変化等については、リスク予測シート、カンファノート等を活用し、情報を可視化して共有することで日々のケアに役立てている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者ご本人やご家族の意向、職員の日々の気づきを介護計画に反映させている。日々のカンファレンスや毎月の担当者中心のカンファレンスにおいてモニタリングを実施し、現状に即した介護計画を作成・実践している。モニタリングシートの活用により、よりニーズをはっきりしたものができるようになっていく。	利用者・家族の意向や希望に基づいて、各種アセスメントシートを利用して把握した情報を活用して介護計画を作成している。ワーカー日誌に利用者個別の計画の短期目標を明記し、計画に基づいたサービスの実施と職員間の記録の視点の統一が図られている。昨年度の評価結果を参考に作成したモニタリング表を活用し、プランの見直しの必要性について毎月確認し、見直しの必要性があれば随時の見直しを実施している。定期的、または、随時のプランの見直し時には、「できないことシート」や「焦点情報シート」などで再アセスメントを行い見直しを実施している。また、プラン作成時、見直し時には主治医からも意見や助言を受け、適宜プランに反映させるように取り組んでいる。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの日々の様子や状況を適切に記録し、職員間で情報を共有しながらケアに活かしている。利用者の生きた証であるという意識を全職員が持ち、言葉や仕草、表情等を細かく記録し、介護計画の見直しに反映させるようにしている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの状況やニーズに応じて、話し合いを重ねながら柔軟なサービス提供に取り組んでいる。重度化や看取りに関しても必要な医療との連携を図り、要望に応えられるように尽力している。また、居宅・デイサービスと住み慣れた地域で継続してケアを受けることができるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などを通して地域包括支援センターとの協働のほか、近隣の商店街や理美容院、病院等の地域資源を把握し、利用者一人ひとりの持てる力を発揮しながら、地域の持つ力を活用できるように支援している。また近隣保育園との交流も頻繁に行っている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望に応じて、かかりつけ医、または協力医療機関に受診できるように支援している。また、専門医の定期的な往診があり、適切に医療を受けることができる。利用者の健康状態で些細な変化や心配事があれば、その都度相談や受診ができる態勢も整えている。	利用者・家族の希望を聴取し、希望のかかりつけ医への受診・往診や協力医療機関への受診を行い、適切な医療が受けられるように支援している。往診の結果は「往診記録」として、通院・入院については個別に「通院・入院記録」として記録されている。家族が受診同行される場合は、普段の状況を家族に伝え医療機関に情報提供している。受診結果については、家族から結果を聴取し、個別の「通院・入院記録」に記録として残し、「ご家族ノート」にも記載し職員間で情報共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケアリーダーとして看護師を配置しており、利用者の健康管理や状態変化に応じた適切な支援が常に行える体制が整っている。日頃からケアに携わっている職員が看護師ということで、利用者、職員だけでなくご家族からも相談を受けている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、利用者の情報提供とともに、安心して過ごせるように職員や利用者が頻繁にお見舞いに行き、現状を把握している。また、入院によるダメージを最小限にとどめるため、早期退院に向けて病院関係者やご家族との情報交換や積極的な支援に努めている。	入院の際には、「情報シート」で医療機関に情報提供を行っている。入院中は、利用者と共に頻回に見舞いに行き、利用者・職員との馴染みの関係継続ができるように支援するとともに、利用者の状態を把握し、病院関係者と早期退院に向けて連携を図っている。退院の前には、医療機関からかかりつけ医へ情報提供してもらい、退院前カンファレンスを行い早期に受け入れ態勢を整えるように努めている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期に関して方針を説明している。その後も状態の変化に応じて、利用者・ご家族の意向にそえるよう、随時話し合いを繰り返している。最期までその人らしい暮らしを支えるため、ご家族やかかりつけ医等の関係者と連携を図りながらターミナルケアに取り組んでいる。	契約時に、重度化・終末期に向けた事業所の方針・対応についての指針を明確にして説明を行い、同意を得るようにしている。重度化された場合には、段階に応じて主治医・家族・職員で話し合いを行い、家族の意向を確認し、事業所としての支援の方法を検討している。支援方法は、カンファレンスで全職員に周知し、連絡ノートにも記載し、ケアの統一を図り支援するよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に対応できるように、内部研修を定期的開催したり、公的機関による市民救命士講習等外部研修を全職員が順次受講したりしている。またリスク予測シートを作成し、事故を予防できるようにも取り組んでいる。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時の対応について法人内で研修を定期的 に実施するとともに、昼夜を想定した消防避難訓練 を年に2回実施している。また日常的に交流のある 自治会、消防署等との連携を図りながら、災害発生 時には協力が得られるように取り組んでいる。災害 に備えて備品等の準備もしている。	消防避難訓練を、昼夜想定で年2回実施して いる。非常災害時の対応については、研修も 実施している。津波の際には地域の避難場 所となる可能性もあるため、協力体制の整備 に努めている。 運営推進会議などを通して、地域との協力関 係を構築している。災害に備えての備蓄の準 備も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が、敬語で話をする事、尊厳ある生活のお 手伝いをする事をオリンピア灘の約束として取り組 んでいる。また、誇りやプライバシーを損ねない声 かけや対応等、職員同士注意しあいながら日々の ケアの中で活かせるように努めている。	理念の中に「尊厳とプライバシーの確保」に ついて明文化し、理念について理解を深め利 用者の尊厳やプライバシーを意識し大切に した支援につなげている。各ユニットで、利 用者も参加して「言葉遣いカンファレンス」を開 催し、全職員の意識づけと日々のケアでの反 映を図っている。利用開始時に利用者個別 の情報を全職員で共有し、尊厳やプライバ シーの確保の視点から、日々の会話や話の 内容にも注意を払い日々支援するように努 めている。個別の記録は、ワーカー室の鍵の かかる書庫に保存されている。写真の掲載 に関しては、契約時に意向を確認し同意を得 ている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	「生活の主人公は利用者ご本人」という理念のもと、 利用者が自己決定できるように職員は依頼型で声 掛けをし、利用者が思いや希望を表すことが できるように取り組んでいる。意思表示が困難な 方に対しては、表情や仕草から思いや希望を汲 み取るようにしている。			

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「生活の主人公は利用者ご本人」という理念のもと、一人ひとりの生活のリズムやペースを大切に、毎朝、どのように過ごしたいかを話し合い、希望にそって支援している。また、利用者が希望を気軽に伝えやすい雰囲気作りにも努めている。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者ご本人が洋服や化粧品を買いに行く機会を設けたり、近隣の行きつけの美容室で、利用者の好みのヘアスタイルを楽しめるよう相談したりと、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの持てる能力を引き出し、献立作りから調理、後片付けまで、積極的に参加されるように取り組んでいる。利用者同士で声を掛け合い調理や片付け、食事のお手伝いをされる時もある。また、食事の時間は心が開く時ということを全職員が理解し、利用者と一緒に食事の時間を大切にしている。	各ユニットで利用者の希望や要望、季節を考慮し1週間分の献立を立てるようにしている。これまでのメニューの写真を撮りため、写真を見て利用者が食べたい物を伝えられるように、希望を引き出すように工夫している。献立に応じた食材の搬入を受け、利用者一人ひとりの持てる力を最大限に発揮してもらい、職員と共に調理・盛り付け・配膳・後片付けが行われている。利用者が調理に参加しやすいように調理器具も必要に応じて揃え、安全に調理に参加できる環境を整えている。イベントや季節の行事に合わせた献立やメニューを考え、食を通じた様々な楽しみが持てるように取り組んでいる。また、職員も同じテーブルで、同じ食事を共にすることで、歓談しながら家庭的な雰囲気ですら食事を楽しめるようにしている。利用者の希望や気分に合わせて外食を楽しめる機会も多く持ち、馴染みの鮎店やファミリーレストランでのおやつなど、外食を日常的に楽しんでいる。	

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が利用者とともに食事をするにより、好みや食事・水分量を把握し、異変があれば職員間で共有している。食事・水分量が低下しつつある利用者は、好みや生活習慣を見直し検討している。また、栄養バランス等については、法人内の栄養士のアドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの重要性を理解し、一人ひとりの口腔状態や、ご本人の力に応じた口腔ケアと一緒に考え実施している。歯科医院や法人内の歯科衛生士からもアドバイスを受け、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンや習慣を把握し、排泄の自立に向けて支援している。また、羞恥心や不安を軽減するためのさりげない声かけとともに、排泄用品の使用を減らせるよう、一人ひとりに合った排泄方法の検討を常にしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、できる限りトイレで排泄ができるように支援している。できる利用者には参加をお願いして、排泄について困ったことはないかカンファレンスを開催し、利用者の意見や要望を聴取し、個別の自立支援につなげている。意向や困りごとを訴えることが難しい利用者の中には、排泄のカンファレンスで利用者の立場に立って考え、自立した最適な支援方法を検討しプランに反映している。パットゼロを目指し、オムツやパットを安易に使用せず、快適に過ごせるように検討・工夫し支援している。言葉の使い方や声の大きさ、声かけのタイミング、方法などに配慮し、羞恥心やプライバシーに配慮した支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食生活において、食事のメニューの工夫や適切な水分補給を行うことにより、便秘を予防する取り組みをしている。また、一人ひとりの能力に応じ、散歩や体操など積極的に運動ができるよう支援している。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの習慣や希望に添っていつでも気持ちよく入浴できるよう、職員間で協力しながら支援している。あまり入浴を好まない利用者についても、不安や羞恥心等を取り除き、安心して入浴できるよう支援するとともに、ご自分から入浴したいと言えるような雰囲気づくりや声かけも行っている。	入浴の曜日や時間は特に決めずに、週2回以上入浴してもらえるように支援している。希望により、朝風呂を支援する場合もある。入浴を嫌がる利用者についても、無理強いせず、気持ちよく入浴してもらえるように声かけや誘導を工夫している。その日の気分で銭湯を利用したり、気の合った人同士で入浴をするなど、入浴を楽しめるように支援している。ADLが低下した場合も、二人介助で浴槽に入ることができるように支援している。また、入浴時のプライバシーや羞恥心への配慮も、職員間で徹底している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりが必要な休息や睡眠をとれるよう、生活リズムやその日の状況に応じて支援している。一律の就寝時間などは設けず、一人ひとりの生活のペースを尊重し、就寝前にはリラクセスして過ごせるよう配慮している。また使い慣れた枕等を持ってきている方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の目的や用法を把握できるよう薬リストをファイルし、適切な服薬の援助ができるように、日々情報の共有を行っている。服薬時には確認を怠らず、誤薬等の事故防止に努めるとともに、身体状況の変化についても医師との情報交換を密に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのこれまでの人生をよく知り、楽しみごとの継続、役割を持った生活等、その人らしく過ごせるよう支援している。また、カンファノート等を活用しながら、常に新しいことにチャレンジし、喜びへとつながるよう取り組んでいる。ご家族が知らなかった趣味を発見することもある。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に応じて、日常的に外出できるように支援している。また、馴染みの場所、普段は行けないような場所へも、ご家族の協力を得ながら取り組んでいる。沖縄、城崎温泉、有馬温泉、夕日が浦温泉、淡路島、ディズニーシーやお墓参り等、これまでもご本人の希望を数多く実現させている。	散歩、買い物、食事、図書館など、その日の利用者一人ひとりの希望に応じて外で過ごす機会を日常的に持っている。外出時には身支度を整え、化粧をして日々の外出を楽しんでいる。外出が継続できるように、普段からNHKのテレビ体操や室内での歩行訓練などを自主的に取り入れ日課として行い、ADL低下予防に努め取り組んでいる。ユニット対抗で「ナダリンピック」を開催し、日課になっている運動の成果を表す機会を設けている。重度の利用者であっても職員だけでなく、利用者同士で支援助しあいながら外で過ごす機会・外出の機会を均等に持つことができている。どうぶつ王国、パイプオルガンコンサート、ルミナリエ、県立美術館、有馬や城崎温泉、沖縄や東京ディズニーランドへの旅行など、家族の協力を得ながら、利用者の希望や要望が実現できるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	これまで通りの暮らしを続けるために、お金を持つことが大切であることを職員は理解し、一人ひとりの希望や能力に応じた支援をしている。お金を所持していることから安心感も生まれ、買い物への意欲も高まっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者がご家族や友人に気軽に電話をかけたり、暑中見舞いや年賀状等、時候に応じて手紙や葉書のやりとりをしたりできるよう支援している。また、外出の報告の手紙を、利用者と職員と一緒に作成し、ご家族に送るということにも取り組んでいる。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットをひとつの家として捉え、個性を大切に、利用者と共に季節の花や写真を飾ったり、利用者の趣味の作品を飾ったり等、生活感や季節感を取り入れるようにしている。また、天窗等を利用して、自然の音や光、風をうまくいかすことによって、居心地のよい空間作りに努めている。	季節の花や折々の装飾など、季節感や生活感を取り入れて、利用者が落ち着いて快適に過ごせる共用空間づくりに取り組んでいる。また、卓球台を設置・活用したり、廊下にもソファや椅子を設置し少人数で過ごせる空間づくりを行ったり、歌が好きな利用者が多いため人数分の歌詞カードを作成・設置したり、花・植物・干し柿づくりなどで季節感を出すなど、各ユニットの利用者の生活や嗜好に合わせた、ユニットの個性を大切にした共用空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットの随所にソファやテーブルセットを設置することで、一人で過ごしたり、気の合う方とのんびり語らえたりする居場所となっている。また、共用スペースにピアノを置くことにより、利用者同士でピアノを弾いたり、ピアノに合わせて歌ったりと、それぞれ思い思いに過ごせる場所にもなっている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご家族の協力を得て、使い慣れた家具、思い出の品々を持ち込まれ、利用者にとって居心地がよく、その人らしく過ごせるスペースとなっている。キーボードやお習字道具、CDデッキ、お仏壇を置かれたり、季節の掛け軸を飾られたり、ベランダに大切な鉢植えを置かれたりしている。	ご家族の協力を得て、使い慣れた家具や好みの調度品などを持ち込み、落ち着いて過ごせる居心地のよい環境づくりを支援している。使い慣れた家具・仏壇・趣味の道具・好みの装飾品・鉢植えなど、その人らしさを大切にした居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの状態に応じ、「できること」や「わかること」を活かした環境づくりに努めている。家庭的な雰囲気大切に、安全に配慮した上で、できるだけ自立した生活を送ることができるよう工夫をしている。		